長崎医療センターにおける院内がん登録の現況報告

原本　裕里*　　木下　明敏　　吉冨　裕子
下田　美由紀　　納冨　康夫

１．はじめに

長崎医療センターは、長崎県のほぼ中央に広がる人口9万人の大村市にあり、病床650床（一般610床、精神40床）の急性期病院で、臓器・疾患病態別に病棟が編成されている。国立病院機構の中でも高度総合医療施設の一つであり、がんをはじめ救急医療など長崎県の拠点病院としての役割を果たし、離島を含めたより広域からの患者を受け入れている。今回我々は、本院における院内がん登録の現況を報告するとともに、今後の課題を探った。

２．院内がん登録室の現状

本院では、2004年7月に院内がん登録委員会を立ち上げ、同年10月に院内がん登録室が設置された。2005年1月には厚生労働大臣より「地域がん診療連携拠点病院」として長崎県で4番目の認定を受けた。院内がん登録室は、医師1名、事務職員1名、がん登録担当者（以下、「担当者」へ省略）3名の計5名からなるメンバーで構成され、担当者3名により日々の登録業務を行っている。毎月1回、メンバーでミーティングを行い、登録件数などの進捗状況や登録室の種々の問題点を討議し解決を図っている。

登録対象は、開設当初より入院・外来を問わず、本院を受診し、診断・治療を行った全てのがん（当初は5大がん）症例である。登録内容は院内がん登録支援ソフト「Hos-CanR」を用いて「がん診療連携拠点病院院内がん登録標準登録様式登録項目とその定義2006年度版修正版」に準拠した登録を行っている。

３．院内がん登録の流れ

(1)　登録対象の見つけ出し
（ケースファインディング）

電子カルテ上の病名検索システムから、主治医が病名入力したがん確定患者およびその疑い患者を検索し、病名登録日を基準に1ヶ月単位で患者ID番号・氏名・病名登録日・診療科名・該当病名（疑診含む）・Cコード（ICD-10）等から構成された一覧表を作成している。保険病名を含めて、1ヶ月分でおよそ900～1,200件のがん病名が抽出される。担当者は、その一覧表をもとに電子カルテで、がんか否かを確認し、入院・外来を問わず、上皮内がんを含む全悪性新生物および良性腫瘍を含む頭蓋内腫瘍を抽出している。1ヶ月分でおよそ120～150件を抽出し、登録対象候補としている。担当者は登録対象候補を既存データと照合し、初発・原発がんのみ抽出し、見つけ出し作業を完了している。1ヶ月分およそ90～120件の症例が登録対象となる。2004年当初は、この一覧表を主治医に提出し、抽出作業を委ねていた。しかし、一覧表を回収するまでに長時間を要し、また一部からは返答もないなど問題が多く、担当者が見つけ出しを行う今のスタイルに至った。見つけ出しに要する時間は、当初の主治医による抽出に比べ、現在は約1/4に短縮できている。

*国立病院機構長崎医療センター院内がん登録室
〒856-8562　長崎県大村市久原 2 丁目 1001-1

(2)　Hos-CanRへの入力

担当者は、先に見つけ出された登録対象の電子カルテを開いて該当する登録項目を探し出しながら、1腫瘍1登録としてHos-CanRへ入力している。

４．登録データ集計結果の報告

毎月、月末にがんで入院している患者をチェックし、その日の全入院患者の何%を占めているかを調査している。2007年1月～12月の月末の入院患者数の平均は585名、がん患者数の平均は188名であり、平均して32.1%ががんで入院していた。2006年は平均31%（176名/576名）であり、2007年は2006年に比べてがん患者の入院割合は増加していた。がん登録数（当該腫瘍初診日が2007年入院分）は1,181件で、その内5大がんは659件であり、全体の56%であった。内訳は、大腸がん16%、胃がん15%、乳がん9%、肺がん8%、肝臓がん7%であった。

2007年がん登録症例の性別では、男性665件、女性516件であった。また年齢別分布でみると、全体で最も多かったのは70～74歳で、184件（約16%）を占めた。男性の年齢分布では、40～44歳から徐々に増えはじめ、55～59歳から急上昇し、75～79歳の118件が年齢分布では最高で約18%を占めた。主要5部位では、最多は大腸がんで121件（年報のピークは65～69歳と80～84歳でともに19件）、次いで胃がん119件（75～79歳、26件）、肺がん72件（75～79歳、16件）、肝臓がん52件（70～74歳、11件）、前立腺がん50件（75～79歳、15件）の順であった。一方、女性では、30～34歳から徐々に増えはじめ、40～44歳で急上昇し、70～74歳の74件が年齢分布では最高で約14%を占めた。主要5部位でみると、最多は乳がんで112件（50～54歳、21件）、次いで大腸がん70件（70～74歳、14件）、胃がん50件（70～74歳と75～79歳でともに9件）、肝臓がん32件（65～69歳、9件）、肺がん26件（70～74歳と75～79歳でともに5件）の順であった。

2007年は長崎県から1,122件の登録症例があった。地域別の受診状況は、当院のある大村市が436件（約39%）と最多で、5大がん233件では、大腸がん83件、胃がん53件、肺がん・乳がんともに41件、肝臓がん15件の順であった。2番目に多いのが諫早市の270件（約24%）で、5大がん154件では、胃がん41件、大腸がん39件、乳がん30件、肝臓がん27件、肺がん17件の順であった。3番目に多いのが島原半島のある南高地区の257件（約23%）で、5大がん149件では、胃がん45件、大腸がん36件、肺がん・乳がんともに25件、肝臓がん18件の順であった。そのほかに、佐世保市がある県北地区、長崎市それに離島（五島・上五島・壱岐・対馬）からの受診もそれぞれ30件ほどあった。また県外では、隣県の佐賀県からの受診が44件と多く、また他の都道府県からも15件の受診があり、そのうち10件が5大がんでの受診であった。

５．おわりに

院内がん登録を開始し、これまで病院として「がん」についてのデータが全くなかった状況から、ようやくデータの集計報告ができるまでになった。当院におけるがん診療の実態把握や、それに基づく対策を検討し実行していくための基礎データとしてさらに活用できるよう、また地域がん登録としてもデータが集積され、地方・国レベルでのがん対策の資料としての役割を果たせるよう、データの登録を続けていきたい。